

ナス（露地栽培）の病害防除対策について



枝葉が込み合ってきた時期に、不安定な天候が続くと、うどんこ病、すすかび病、褐色腐敗病などの各種病害が発生し、生育に影響を及ぼします。特に、果実に発生する褐色腐敗病、褐紋病、黒枯病、菌核病、灰色かび病などは、多発生すると大きな減収となります。このため、**圃場を丁寧に観察し、早期発見に努めるとともに、発生初期からの防除を徹底してください。**



各種病害の症状と防除薬剤

- 1 **うどんこ病** : 主に葉の表面に白色粉状のかびを生じ、次第に黄褐色に変色して、多発生すると株全体に発生する。
- 2 **すすかび病** : はじめ葉裏にかび状の斑点があらわれ、次第に色が濃くなって灰褐色の病斑となる。
- 3 **褐色腐敗病** : 主に果実で発病し、はじめ淡褐色～褐色のくぼんだ病斑を形成、多湿が続くと灰色粉状のかびを生じ、やがて軟化腐敗する。また、茎の地際部や葉、枝などでも発生する。
- 4 **黒枯病** : 主に葉に発生し、激発すると果実にも病斑を生じる。葉では、はじめ紫褐色で不正形の小斑点を生じ、一部は拡大して大型病斑にもなるが、多くはそのまま経過する。
- 5 **菌核病** : 主に茎に発生するが、果実でも発病する。茎では、水浸状の病斑を生じ、その上部の茎葉がしおれる。果実では、茶褐色の水浸状の病斑を生じ、腐敗する。病斑上には白色綿毛状のかびを生じ、後にネズミの糞状の菌核を形成する。
- 6 **灰色かび病** : 幼果の花弁から発生することが多く、主に果実で発病する。なお、葉や茎にも褐色の病斑を生じるが、これは発病した花弁が付着して発生することが多い。
- 7 **褐紋病** : 葉、茎、果実などあらゆる部分に発病するが、果実に発生すると褐色点状の病斑が次第に輪紋を描きながら拡大し、のちに病斑部に褐色の小粒点を多数生じる。葉ではやや明るい褐色の病斑を生じ、輪紋をもつ大型病斑に拡大して、しばしば中央部に穴があき、病斑の周囲が黄化する。
- 8 **褐色斑点病** : 葉では灰緑色～淡褐色の円い小斑点を多数密生し、乾燥すると破れたり葉枯れを起こして落葉する。果実でも発病し、腐敗してくぼみ、落果する場合がある。
- 9 **褐色円星病** : 葉に灰褐色の円い斑点を多数生じ、激発すると黄変して落葉する。病斑には暗灰色のかびを密に生じる。

表1 ナス定植後の生育期における各種病害の主な防除薬剤

(令和5年6月14日現在)

薬剤名	うどんこ病	すすかび病	褐色腐敗病	黒枯病	菌核病	灰色かび病	その他	分類
ダコニール1000 ※	○	○		○		○		M5
ベルコートフロアブル	○	○		○		○	褐紋病	M7
パレード20フロアブル	○	○		○	○	○		7
ファンタジスタ顆粒水和剤	○	○		○	○	○	褐色円星病、褐色斑点病など	11
シグナムWDG ※※	○	○			○	○	褐色斑点病	7と11
フルピカフロアブル	○					○		9
トリフミン水和剤	○	○						3
モレスタン水和剤	○							M10
フォリオゴールド ※	○	○	○					4とM5
ジーファイン水和剤	○			○				NCとM1
プロポーズ顆粒水和剤 ※		○	○					40とM5
レーバスフロアブル			○					40
ランマンフロアブル			○					21
ベンレート水和剤				○	○	○	褐紋病など	1
ロブラール水和剤		○		○	○	○	褐色斑点病	2
カンタスドライフロアブル ※※		○			○	○		7
ゲッター水和剤 ※※※				○	○	○		1と10
トップジンM水和剤 ※※※				○	○	○		1
スミレックス水和剤					○	○		2
ピクシオDF					○	○		17
セイビアーフロアブル20						○	褐色斑点病など	12

注1) 表中 ※印の薬剤には、いずれも有効成分TPNを、※※印には有効成分ボスカリドを、※※※印には有効成分チオファネートメチルを含みます。有効成分の総使用回数に、十分注意してください。

注2) 分類欄には、FRACコードを記載しました(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。